

倫理規程
(ひな型)

(目的)

第1条 この規程は、□□□□（以下「〇〇〇」という。）が実施する第三者評価事業に関する倫理について必要な事項を定めることにより、常に公正・中立な立場で評価事業を実施することを目的とする。

(使命及び責任)

第2条 〇〇〇は、福祉サービス利用者及びその家族（以下「利用者等」という。）に対しては、最適な福祉サービス事業所（以下「事業所」という。）を選択できるようなサービス情報を提供し、また、事業所に対しては、質の高いサービスを提供することができるように、客観的な立場による評価事業を提供することにより、福祉サービス全体の質の向上を図ることを使命とする。

2 〇〇〇は、前項の使命の達成にふさわしい第三者評価機関となるべく、常に必要な技術、知識の習得など日々研鑽するものとする。

(公正)

第3条 〇〇〇は、評価事業の実施にあたり、対象事業所または利用者等に対し、偏見に基づく一切の差別を行わず、常に公正な態度をもって評価事業を実施し、その信頼を保持しようとするものとする。

(人権の尊重)

第4条 〇〇〇は、評価事業を実施するにあたり、利用者等に調査協力を強いることのないよう、利用者等の意志に十分配慮し、人権を尊重する。

また、〇〇〇が評価事業を実施するにあたり、補助者による支援を受ける場合には、当該補助者に対しても、利用者等に調査協力を強いることのないよう、利用者等の意志に十分配慮し、人権を尊重するように適切な指導を行う。

(窓口の設置)

第5条 〇〇〇は、当該評価事業に関する問い合わせや苦情に対応する窓口を設け、対象事業所、利用者等に周知する。

(評価契約の締結)

第6条 〇〇〇は、〇〇〇と対象事業所との間に評価事業の公正・中立を害するような利害関係を生じ、評価事業の実施に支障を来すおそれがあるときは、対象事業所と評

価契約を締結しない。

(評価事業所との関係)

第7条 ○○○は、評価契約を締結している対象事業所との間において、評価の中立・公正を害するような一切の利害関係を生じないものとする。

(配慮義務)

第8条 ○○○は、評価事業の実施にあたり第三者評価機関として認められる範囲を超えて、対象事業所に業務上の不必要な負担をかけたり、不利益をもたらすようなことはしない。

(紛争の防止)

第9条 ○○○は、対象事業所との信頼関係を保持し、紛争がないように努め、紛争が生じたときはとちぎ福祉サービス第三者評価推進機構（以下「推進機構」という。）に速やかに報告するとともに、早期解決にあたるものとする。

(推進機構との関係)

第10条 ○○○は、評価事業実施にあたっては、評価の公正・中立を害しない限り、推進機構の指示を遵守するものとし、推進機構が評価事業の適正な実施を目的として行う調査等に協力するものとする。

附 則

この規程は、平成○○年○○月○○日から施行する。

※このひな型について

作成日 平成17年7月4日

改正日 平成17年11月17日